

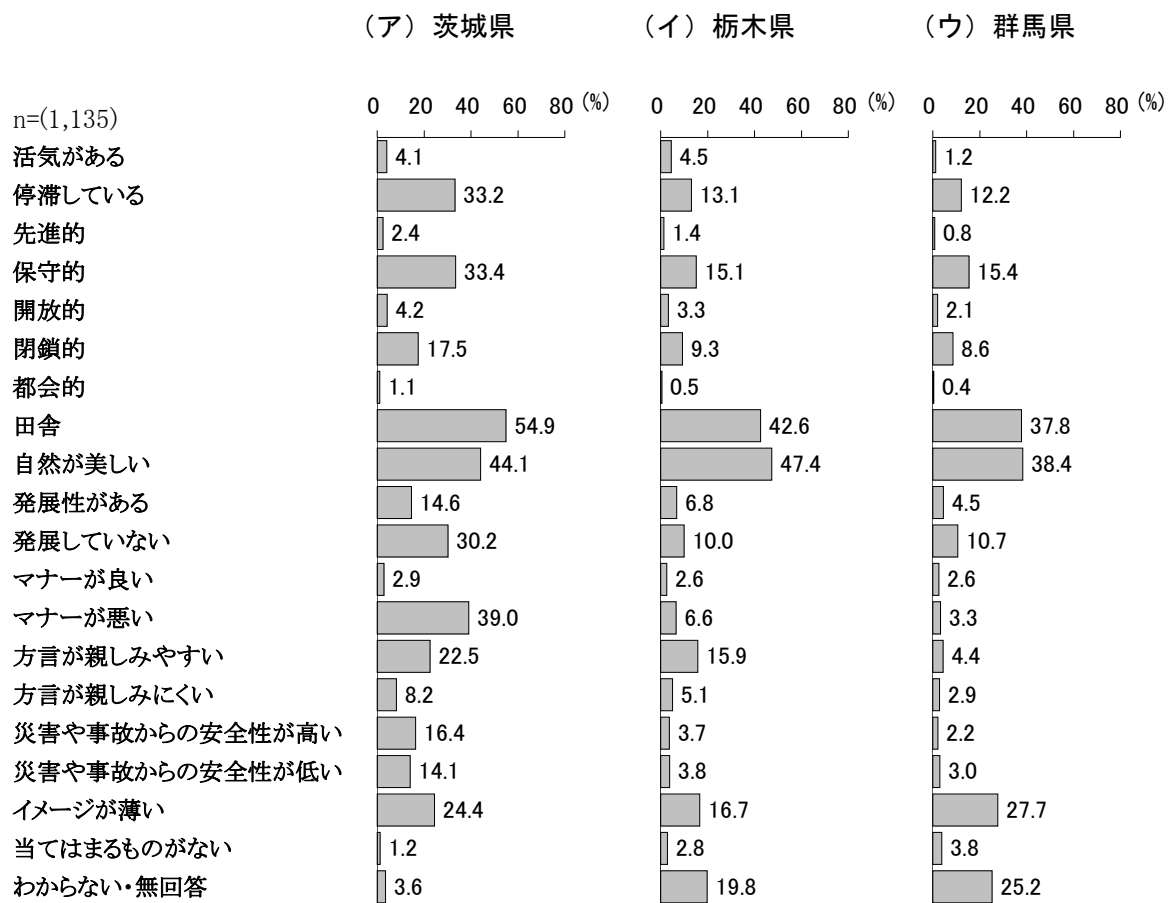
Ⅱ 茨城県民の郷土愛

1. 都県に対するイメージ

(1) 都県に対するイメージ

—「田舎」が5割台半ばで最も多い—

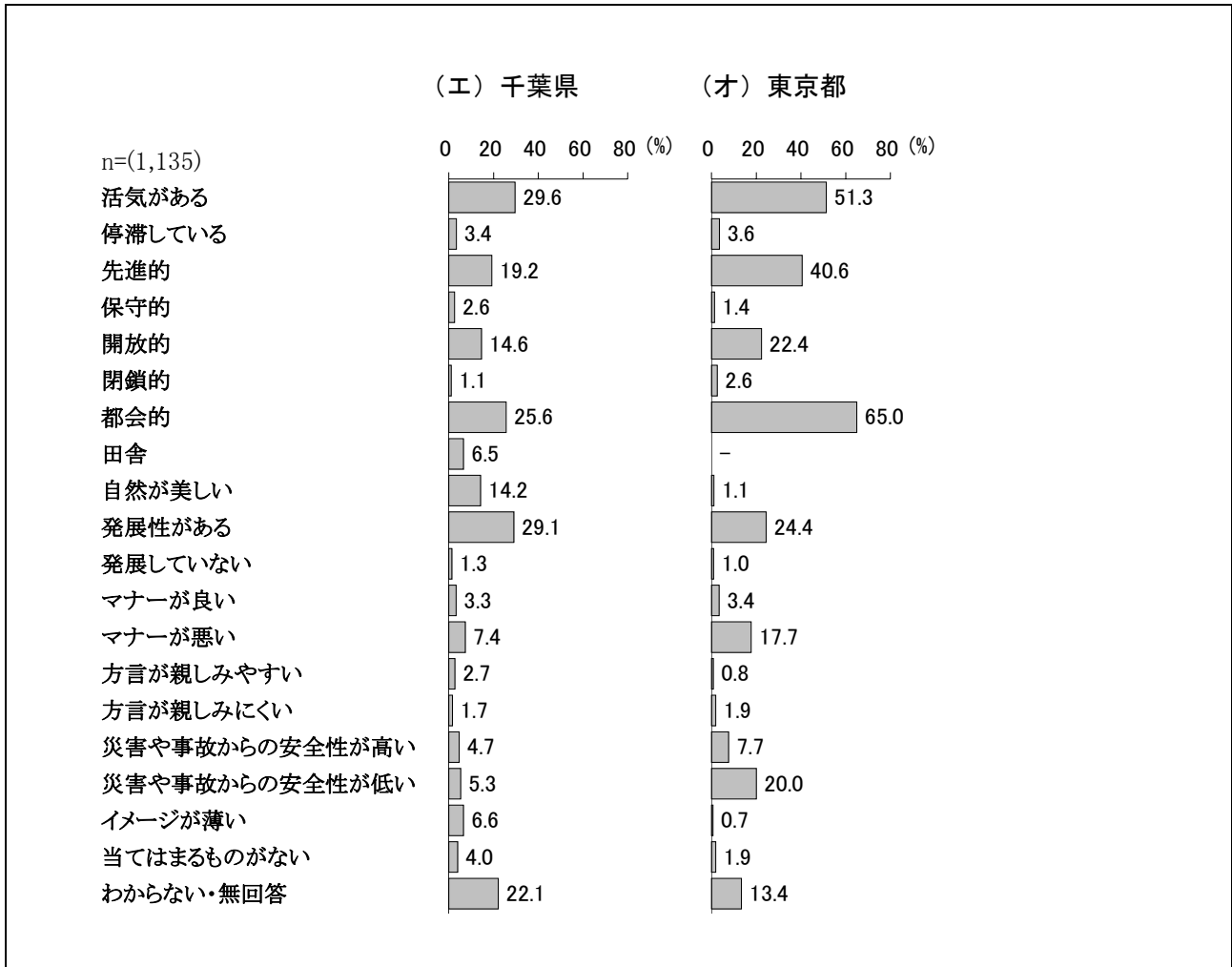
問3 あなたは、以下の都県に対して、どのようなイメージを持っていますか。また、その都県の資源に対してどのようなイメージを持っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



茨城県についてのイメージとしては、「田舎」(54.9%)が5割台半ばで最も高く、次いで「自然が美しい」(44.1%)が4割台で、「マナーが悪い」(39.0%)、「保守的」(33.4%)、「停滞している」(33.2%)、「発展していない」(30.2%)が3割台で続いている。

栃木県についてのイメージとしては、「自然が美しい」(47.4%)が5割近くで最も高く、次いで「田舎」(42.6%)が4割台で、「イメージが薄い」(16.7%)、「方言が親しみやすい」(15.9%)、「保守的」(15.1%)、「停滞している」(13.1%)、「発展していない」(10.0%)が1割台で続いている。

群馬県についてのイメージとしては、「自然が美しい」(38.4%)が4割近くで最も高く、次いで「田舎」(37.8%)が3割台で、「イメージが薄い」(27.7%)が2割台半ばを超え、「保守的」(15.4%)、「停滞している」(12.2%)、「発展していない」(10.7%)が1割台で続いている。



千葉県のイメージとしては、「活気がある」(29.6%)が3割近くで最も高く、次いで「発展性がある」(29.1%)、「都会的」(25.6%)が2割台で、「先進的」(19.2%)、「開放的」(14.6%)、「自然が美しい」(14.2%)が1割台で続いている。

東京都のイメージとしては、「都会的」(65.0%)が6割台半ばで最も高く、次いで「活気がある」(51.3%)が5割台で、「先進的」(40.6%)が4割台で、「発展性がある」(24.4%)、「開放的」(22.4%)、「災害や事故からの安全性が低い」(20.0%)が2割台で続いている。

【(ア) 茨城県】

— 「田舎」は女性の20代で8割強、男性の30代でも7割台半ば近くを占める—

地域別でみると、「田舎」は、鹿行(66.7%)で6割台半ばと最も高く、県北(57.5%)、県南(55.2%)でも5割台半ばを超えている。また、「自然が美しい」は、県北(47.9%)、県央(48.1%)で5割近くと高くなっている。「マナーが悪い」については、県央(51.9%)で5割を超えて最も高くなっている。

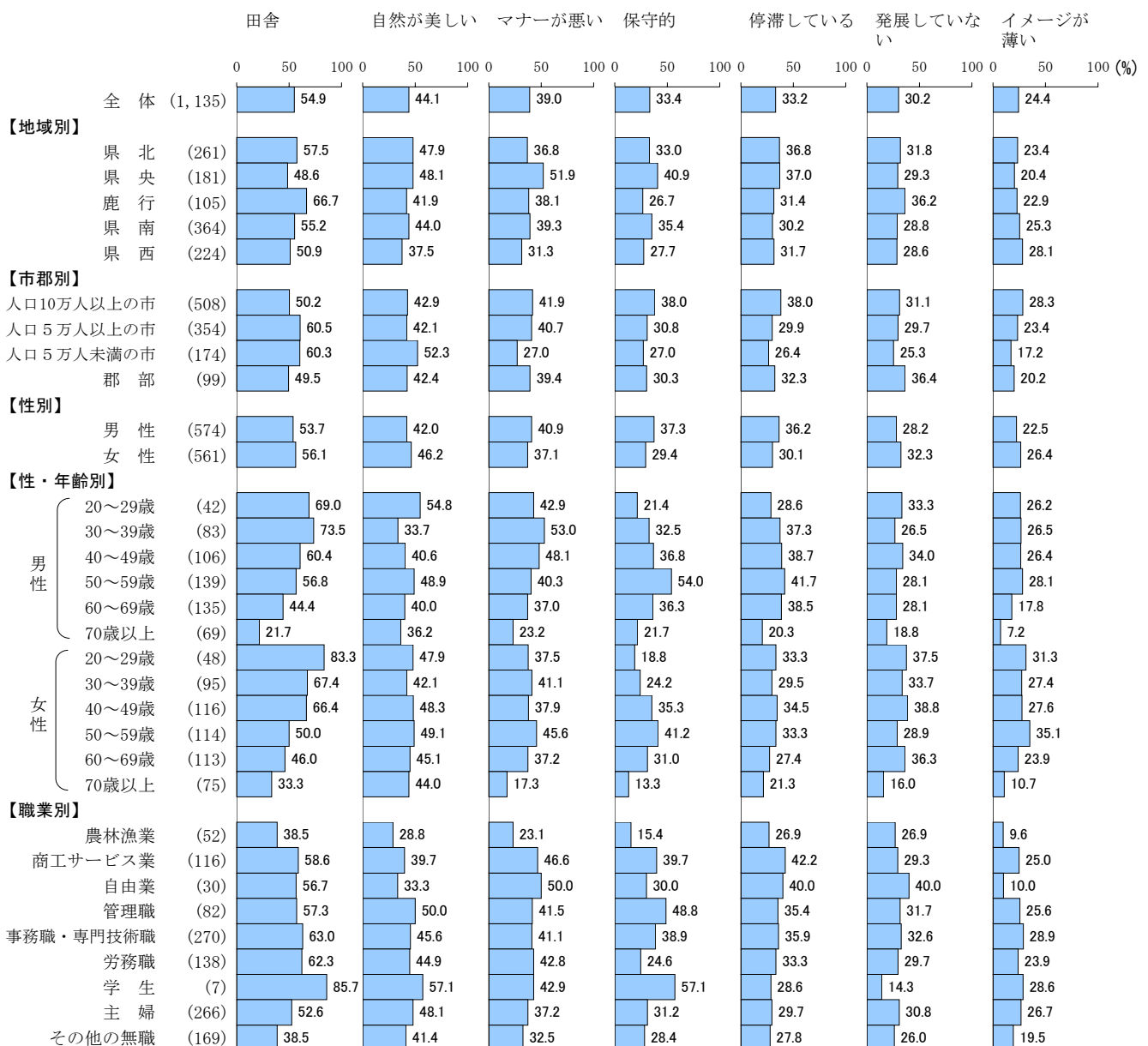
市郡別でみると、「田舎」は、人口5万人以上の市(60.5%)、人口5万人未満の市(60.3%)で6割を超えて高く、10万人以上の市(50.2%)と郡部(49.5%)では5割前後となっている。また、「自然が美しい」は人口5万人未満の市(52.3%)で5割を超えて最も高くなっている。「マナーが悪い」については、人口10万人以上の市(41.9%)、人口5万人以上の市(40.7%)、郡部(39.4%)では4割前後となっているが、人口5万人未満の市(27.0%)では3割を下回っている。

性別でみると、「保守的」は、男性（37.3%）が女性（29.4%）より約8ポイント高くなっているほか、「停滞している」も男性（36.2%）が女性（30.1%）を約6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「田舎」は、女性の20代（83.3%）で8割を超えて最も高く、男性の30代（73.5%）でも7割台半ば近くを占めている。また、「自然が美しい」は、男性の20代（54.8%）が5割台半ばで最も高く、男性の50代（48.9%）、女性の20代（47.9%）、40代（48.3%）、50代（49.1%）でも5割近くとなっている。「マナーが悪い」は、男性の30代（53.0%）で最も高く、男性の40代（48.1%）、女性の50代（45.6%）でも4割台半ばを超えている。

職業別でみると、「田舎」は、事務職・専門技術職（63.0%）、労務職（62.3%）で6割を超えている。また、「自然が美しい」は、管理職（50.0%）で5割と最も高くなっている。「マナーが悪い」については、自由業（50.0%）で5割と最も高くなっている。

図Ⅱ 3-1 都県に対するイメージ（ア）茨城県
（地域別、市郡別、性別、性・年齢別、職業別—上位7項目）



（注）学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(イ) 栃木県】

—「自然が美しい」は、男性の40代と20代が6割前後—

地域別でみると、「自然が美しい」は県央（53.0%）で5割を超えて最も高く、他の地域でも4割台半ばを上回っている。また、「田舎」は、鹿行（46.7%）で4割台半ばとなっているほか、県北（42.5%）、県南（43.1%）、県西（42.9%）でも4割を超えている。「イメージが薄い」については、鹿行（22.9%）県南（19.5%）で2割前後とやや高くなっている。

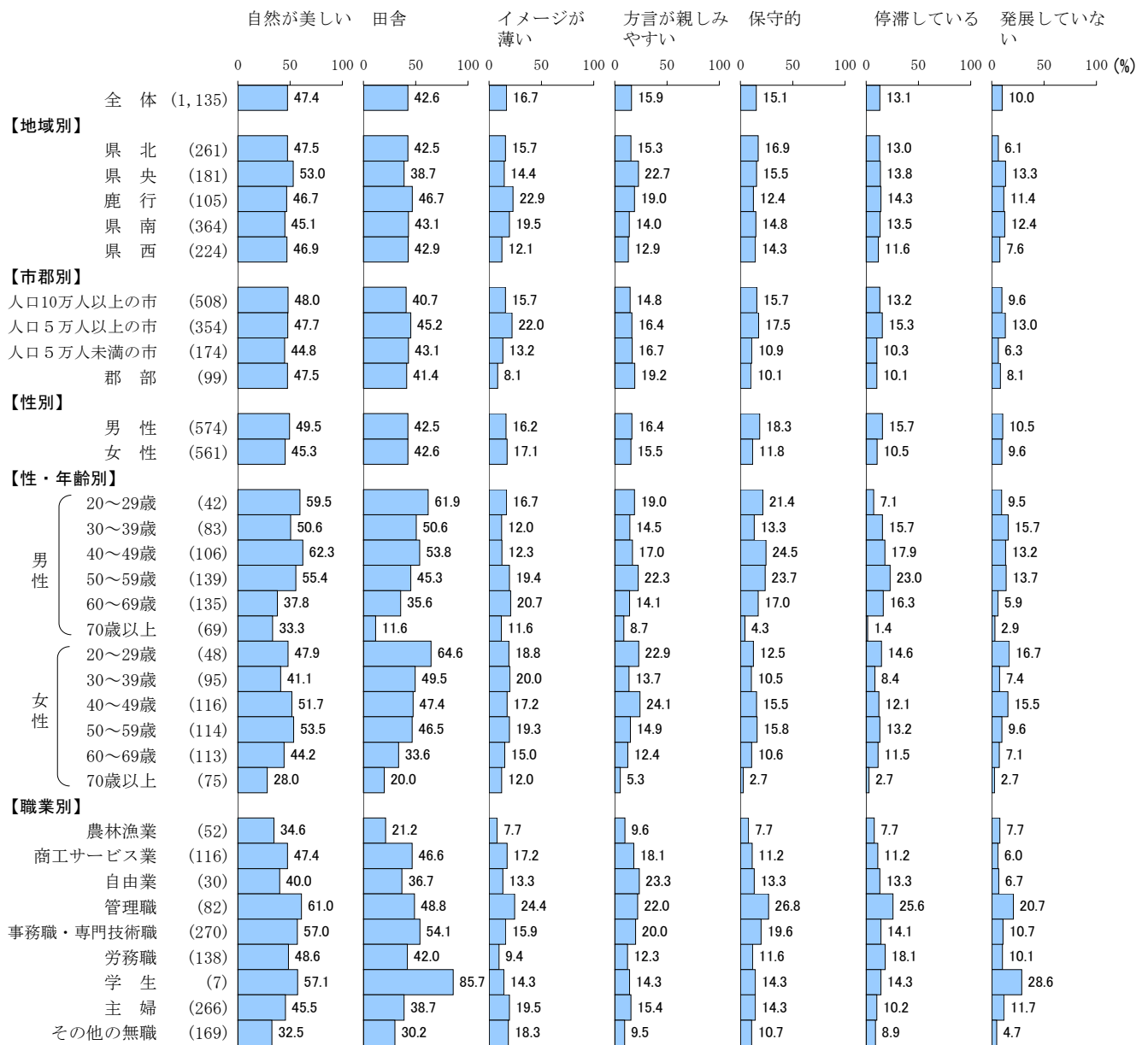
市郡別でみると、「自然が美しい」「田舎」は、すべての層で4割を超えている。「イメージが薄い」については、人口5万人以上の市（22.0%）で2割を超えて最も高くなっているのに対して、他の層は2割を下回っている。

性別でみると、「自然が美しい」は、男性（49.5%）が女性（45.3%）より約4ポイント、「保守的」も男性（18.3%）が女性（11.8%）より約7ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「自然が美しい」は、男性の40代（62.3%）と20代（59.5%）が6割前後と高く、男性の30代（50.6%）、50代（55.4%）、女性の40代（51.7%）、50代（53.5%）も5割を超えている。「田舎」については、女性の20代（64.6%）で6割台半ば近くと最も高く、男性の20代（61.9%）でも6割を超え、40代（53.8%）でも5割台半ば近くとなっている。

職業別でみると、「自然が美しい」は、管理職（61.0%）で6割を超えて最も高く、事務職・専門技術職（57.0%）でも5割台半ばとなっている。また、「田舎」については、事務職・専門技術職（54.1%）で5割台半ば近くと最も高くなっている。

図Ⅱ 3-2 都県に対するイメージ (イ) 栃木県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(ウ) 群馬県】

—「自然が美しい」は、男性の50代で5割を超え、男性の20代と40代でも4割台半ば—

地域別でみると、「自然が美しい」は鹿行（44.8%）で4割台半ばと最も高く、他の地域も3割台半ばを超えている。また、「田舎」は、鹿行（41.0%）、県南（39.8%）、県西（39.3%）で4割前後と高く、県北（35.6%）、県央（33.1%）は4割を下回っている。「イメージが薄い」については、県北（32.6%）で3割を超えて最も高くなっている。

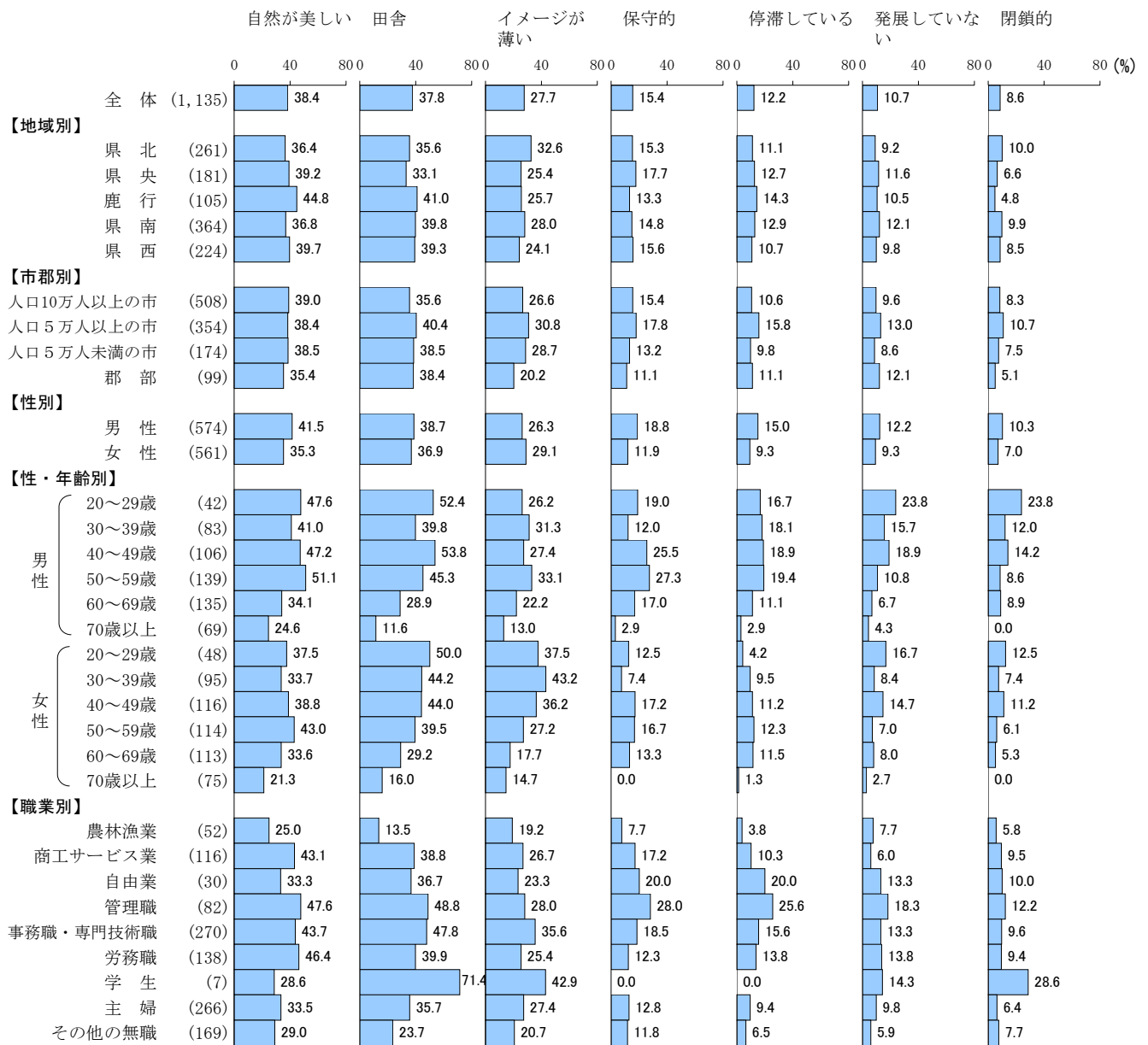
市郡別でみると、「自然が美しい」は、すべての層で3割台半ばを超えている。また、「田舎」は、人口5万人以上の市（40.4%）、人口5万人未満の市（38.5%）、郡部（38.4%）で4割前後となっているが、人口10万人以上の市（35.6%）では4割を下回っている。「イメージが薄い」については、人口5万人以上の市（30.8%）、人口5万人未満の市（28.7%）で3割前後となっている。

性別でみると、「自然が美しい」は、男性（41.5%）が女性（35.3%）より約6ポイント高くなっている。また、「保守的」についても、男性（18.8%）が女性（11.9%）を約7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「自然が美しい」は、男性の50代（51.1%）で5割を超えて最も高く、男性の20代（47.6%）と40代（47.2%）でも4割台半ば、女性の50代（43.0%）でも4割を超えている。また、「田舎」は、男性の40代（53.8%）と20代（52.4%）、女性の20代（50.0%）で5割を超えて最も高くなっている。「イメージが薄い」については、女性の30代（43.2%）で4割を超えて最も高く、女性の20代（37.5%）と40代（36.2%）も3割台半ばとなっている。

職業別でみると、「自然が美しい」は、管理職（47.6%）、労務職（46.4%）で4割台半ばと高くなっている。また、「田舎」は、管理職（48.8%）、事務職・専門技術職（47.8%）で5割近くと高くなっている。

図Ⅱ 3-3 都県に対するイメージ (ウ) 群馬県
 (地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(エ) 千葉県】

—「活気がある」は、男性の20代で4割強、男性の60代でも3割台半ば—

地域別でみると、「活気がある」は、県北（32.2%）、県央（33.7%）、鹿行（33.3%）で3割を超えて高くなっているが、県南（28.0%）、県西（24.1%）は3割を下回っている。また、「発展性がある」は、県北（34.5%）で3割台半ばと最も高くなっている。「都会的」については、鹿行（33.3%）が3割を超えて最も高くなっている。

市郡別でみると、「活気がある」は、人口5万人未満の市（37.4%）で3割台半ばと最も高く、郡部（32.3%）でも3割を超えている。また、「発展性がある」については、郡部（33.3%）で3割を超えて最も高くなっている。

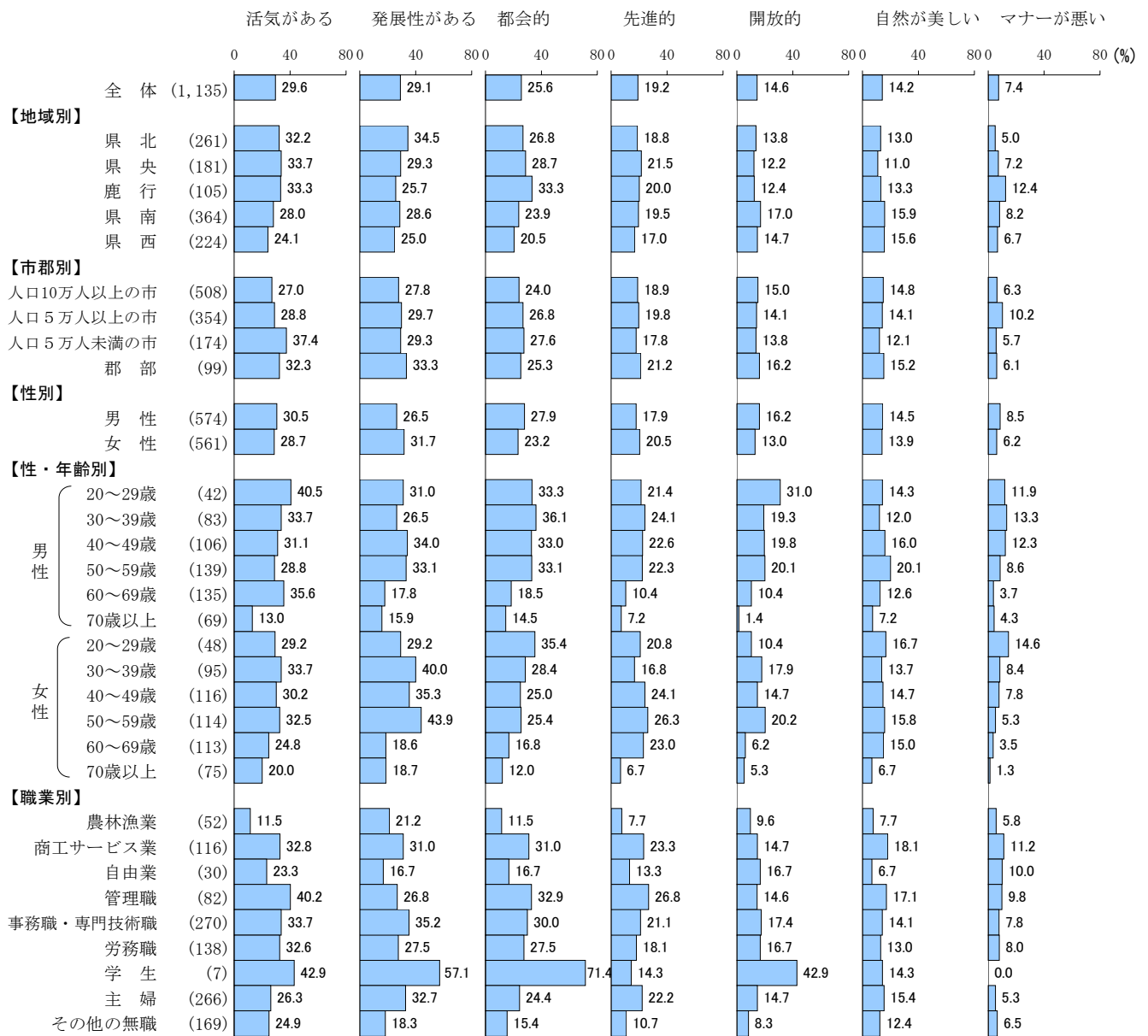
性別でみると、「発展性がある」は、女性（31.7%）が男性（26.5%）を約5ポイント上回っている。一方、「都会的」は、男性（27.9%）が女性（23.2%）より約5ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「活気がある」は、男性の20代（40.5%）で4割を超えて最も高く、男性の60代（35.6%）でも3割台半ばとなっている。また、「発展性がある」は、女性の30代（40.0%）と50代（43.9%）で4割を超えて高くなっている。「都会的」については、男性の20代～50代、女性の20代で3割を超えている。

職業別でみると、「活気がある」は、管理職（40.2%）で4割を超えて最も高く、商工サービス業（32.8%）、事務職・専門技術職（33.7%）、労務職（32.6%）でも3割を超えている。

また、「発展性がある」は、事務職・専門技術職（35.2%）で3割台半ばと最も高く、商工サービス業（31.0%）、主婦（32.7%）でも3割を超えている。

図Ⅱ 3-4 都県に対するイメージ (エ) 千葉県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(オ) 東京都】

—「都会的」は、女性の20代で約8割、男性の20代～40代、女性の30代～50代でも7割超—

地域別でみると、「都会的」は、鹿行（72.4%）で7割を超えて最も高く、県北（66.7%）、県央（63.0%）、県南（66.5%）でも6割を超えている。また、「活気がある」は、県北（59.8%）で約6割と最も高く、県央（55.8%）でも5割台半ばとなっている。「先進的」については、県北（48.3%）で5割近くと最も高く、鹿行（45.7%）でも4割台半ばとなっている。

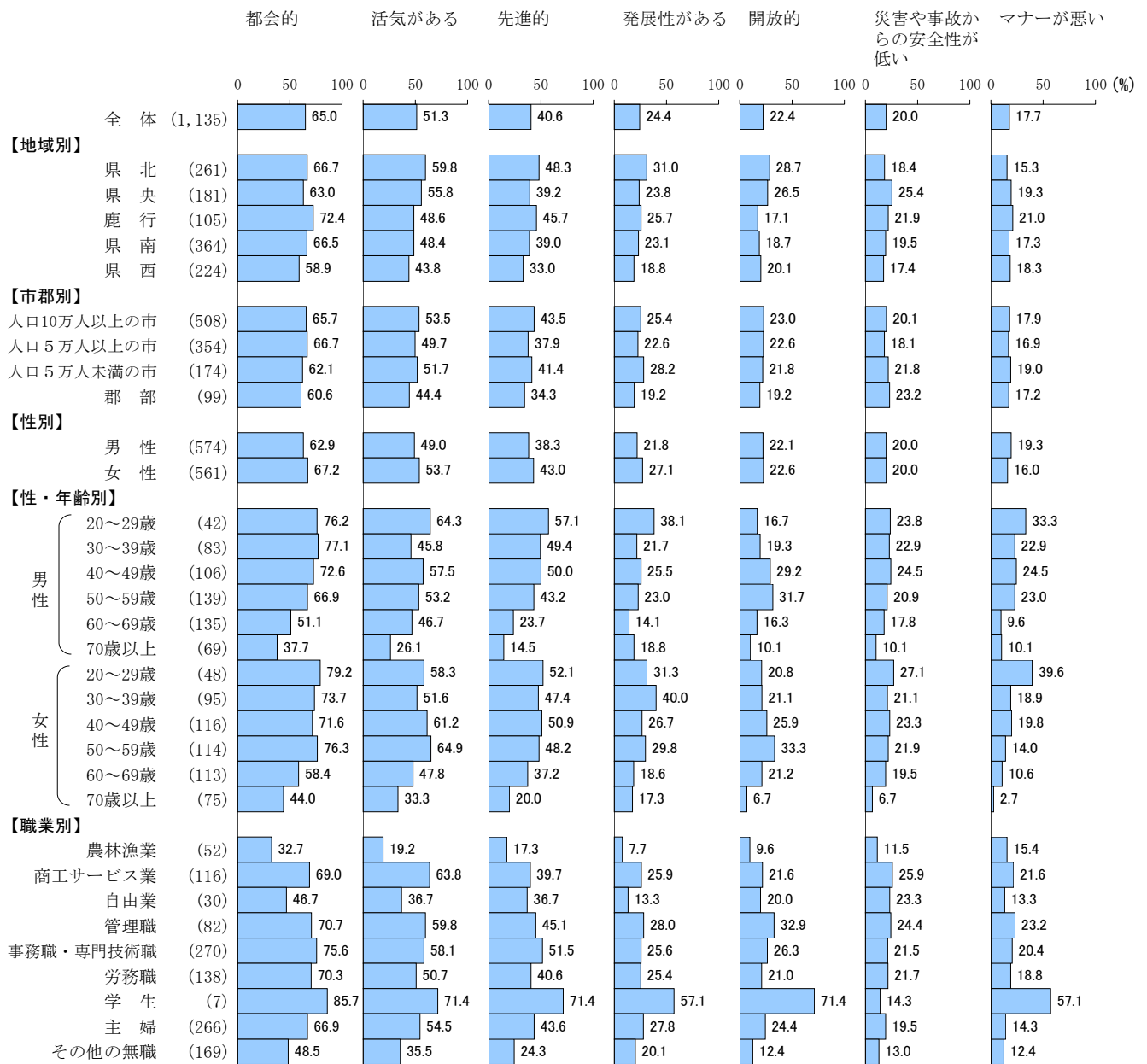
市郡別でみると、「都会的」は、すべての層で6割を超えている。また、「活気がある」は、人口10万人以上の市（53.5%）が5割台半ば近くで最も高く、人口5万人未満の市（51.7%）でも5割を超えている。「先進的」については、人口10万人以上の市（43.5%）が4割台半ば近くで最も高く、人口5万人未満の市（41.4%）でも4割を超えている。

性別でみると、「都会的」は、女性（67.2%）が男性（62.9%）より約4ポイント高く、「活気がある」についても、女性（53.7%）が男性（49.0%）を約5ポイント上回っている。また、「先進的」についても、女性（43.0%）が男性（38.3%）を約5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「都会的」は、女性の20代（79.2%）で約8割と最も高く、男性の20代～40代、女性の30代～50代でも7割を超えている。また、「活気がある」は、男性の20代（64.3%）、女性の40代（61.2%）、50代（64.9%）で6割を超えている。「先進的」については、男性の20代（57.1%）で最も高く、男性の30代、40代、女性の20代～50代でも5割前後となっている。

職業別でみると、「都会的」は、事務職・専門技術職（75.6%）で7割台半ばと最も高く、商工サービス業（69.0%）、管理職（70.7%）、労務職（70.3%）でも7割前後となっている。また、「活気がある」については、商工サービス業（63.8%）で6割台半ば近くと最も高く、管理職（59.8%）、事務職・専門技術職（58.1%）でも6割近くとなっている。

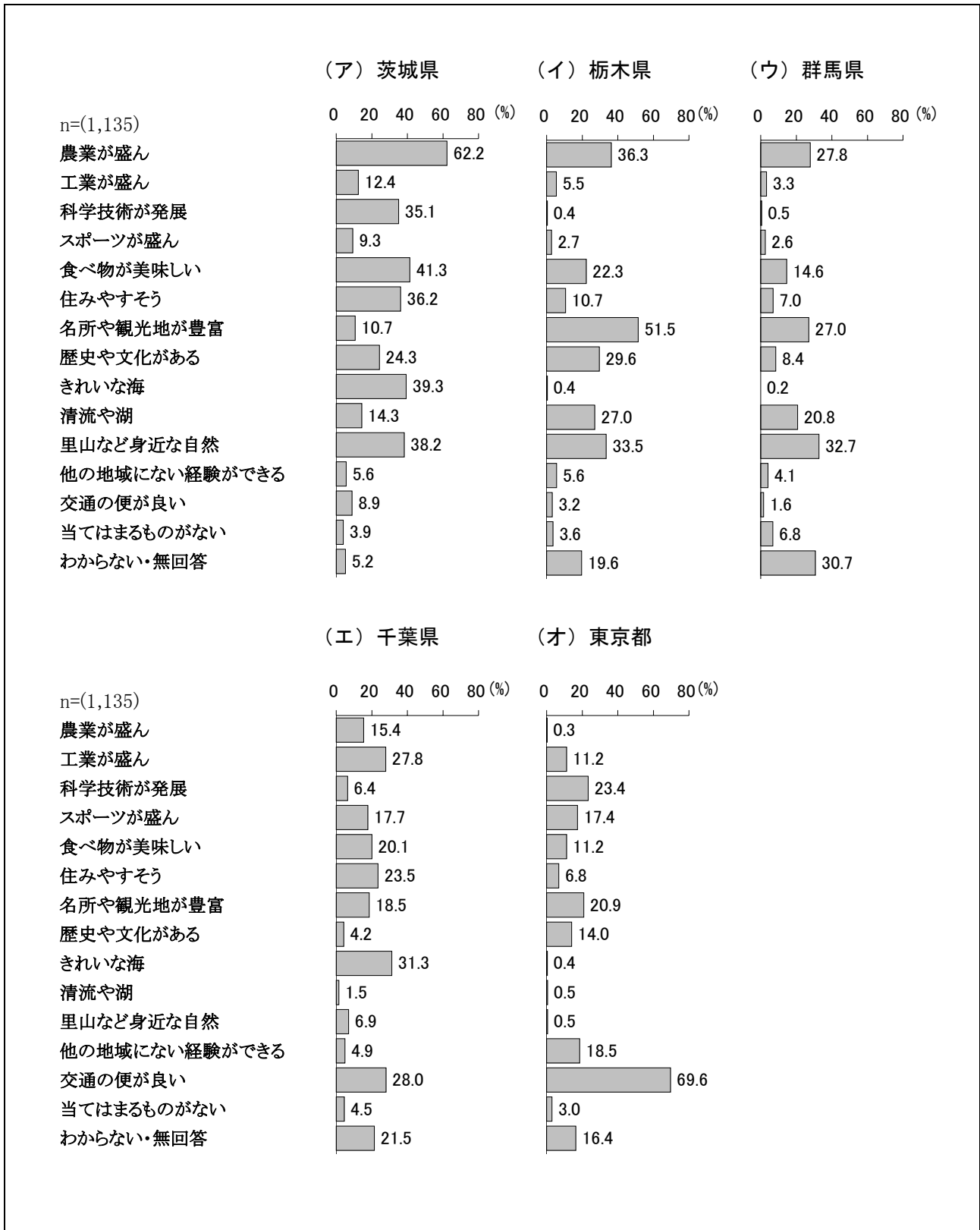
図Ⅱ 3-5 都県に対するイメージ（オ）東京都
 （地域別，市郡別，性別，性・年齢別，職業別—上位7項目）



（注）学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

(2) 都県の資源に対するイメージ

—「農業が盛ん」が6割強で最も多い—



茨城県の資源に対するイメージとしては、「農業が盛ん」(62.2%)が6割を超えて最も高く、次いで「食べ物が美味しい」(41.3%)が4割台で、「きれいな海」(39.3%)、「里山など身近な自然」(38.2%)、「住みやすそう」(36.2%)、「科学技術が発展」(35.1%)が3割台で続いている。

栃木県の資源に対するイメージとしては、「名所や観光地が豊富」(51.5%)が5割を超えて最も高く、次いで「農業が盛ん」(36.3%)、「里山など身近な自然」(33.5%)が3割台で、「歴史や文化がある」(29.6%)、「清流や湖」(27.0%)、「食べ物が美味しい」(22.3%)が2割台で続いている。

群馬県の資源に対するイメージとしては、「里山など身近な自然」(32.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「農業が盛ん」(27.8%)、「名所や観光地が豊富」(27.0%)、「清流や湖」(20.8%)が2割台で続いている。

千葉県の資源に対するイメージとしては、「きれいな海」(31.3%)が3割を超えて最も高く、次いで「交通の便が良い」(28.0%)、「工業が盛ん」(27.8%)、「住みやすそう」(23.5%)、「食べ物が美味しい」(20.1%)が2割台で続いている。

東京都の資源に対するイメージとしては、「交通の便が良い」(69.6%)が7割近くで最も高く、次いで「科学技術が発展」(23.4%)、「名所や観光地が豊富」(20.9%)が2割台で続いている。

【(ア) 茨城県】

—「農業が盛ん」は、男性の20代と40代で7割台半ば近く—

地域別でみると、「農業が盛ん」は、県央(69.6%)で約7割と最も高く、鹿行(66.7%)、県南(61.0%)、県西(63.8%)でも6割を超えている。また、「食べ物が美味しい」は、県央(52.5%)で5割を超えて最も高く、県北(43.3%)、鹿行(43.8%)でも4割を超えている。「きれいな海」は、県北(54.8%)で5割台半ばと最も高く、県央(50.8%)と鹿行(49.5%)でも5割前後となっている。

市郡別でみると、「農業が盛ん」は、人口5万人未満の市(67.2%)で6割台半ばと最も高く、他の層でも6割を超えている。

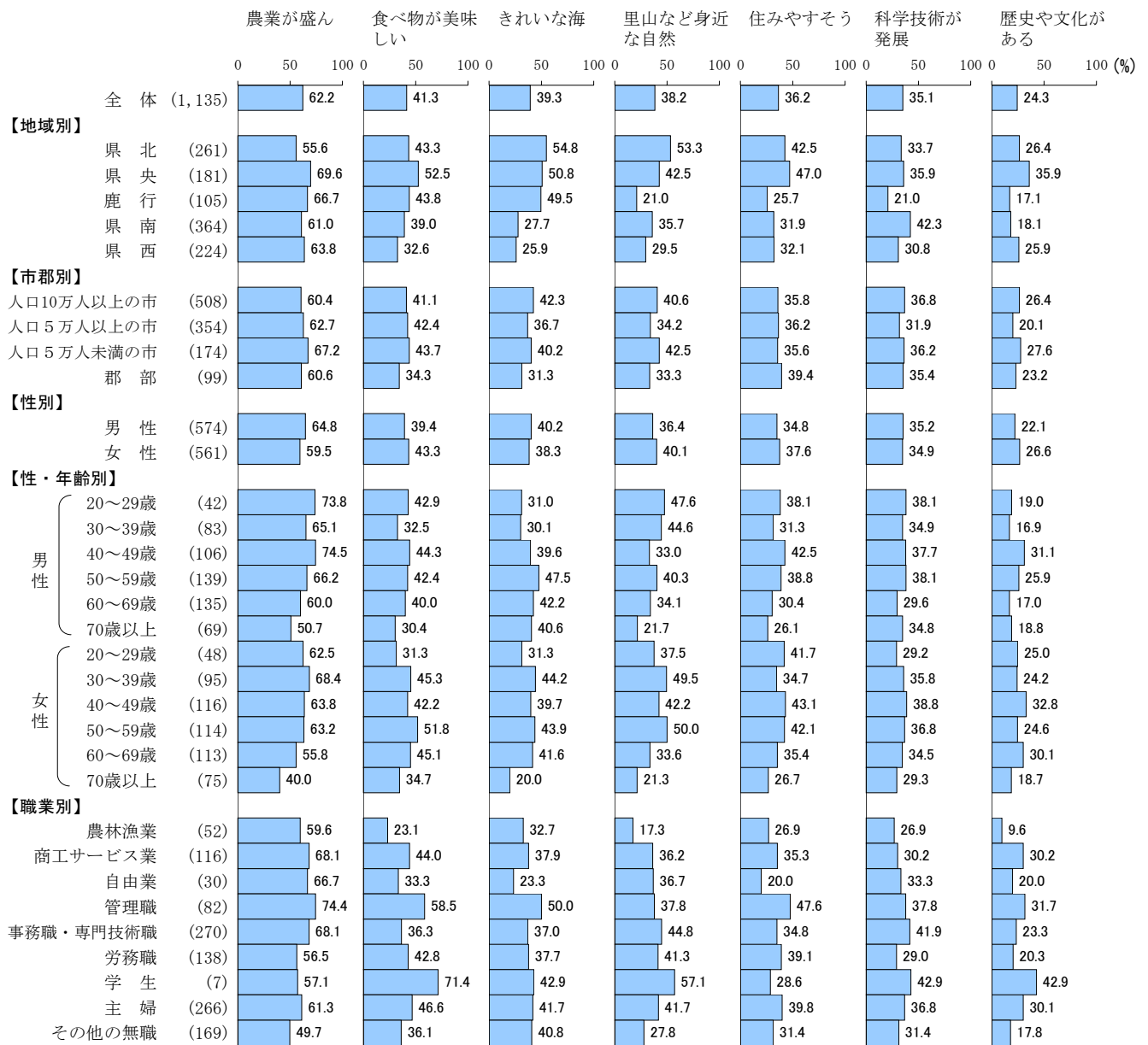
また、「食べ物が美味しい」は、人口10万人以上の市(41.1%)、人口5万人以上の市(42.4%)、人口5万人未満の市(43.7%)では、4割を超えているのに対して、郡部(34.3%)では3割台となっている。

性別でみると、「農業が盛ん」は、男性(64.8%)が女性(59.5%)より約5ポイント高くなっている。一方、「食べ物が美味しい」は、女性(43.3%)が男性(39.4%)を約4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「農業が盛ん」は、男性の20代(73.8%)と40代(74.5%)で7割台半ば近くと最も高く、男性の30代、50代、60代、女性の20代～50代でも6割を超えている。また、「食べ物が美味しい」は、女性の50代(51.8%)で5割を超えて最も高く、男性の20代、40代～60代、女性の30代、40代、60代でも4割を超えている。「きれいな海」については、男性の50代(47.5%)で4割台半ばと最も高く、男性の60代以上、女性の30代、50代、60代でも4割を超えている。

職業別でみると、「農業が盛ん」は、管理職(74.4%)で7割台半ば近くと最も高く、商工サービス業(68.1%)、自由業(66.7%)、事務職・専門技術職(68.1%)でも6割台半ばを超えている。また、「食べ物が美味しい」は、管理職(58.5%)で約6割と最も高く、商工サービス業(44.0%)、労務職(42.8%)、主婦(46.6%)でも4割を超えている。

図Ⅱ 3-6 都県の資源に対するイメージ (ア) 茨城県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(イ) 栃木県】

—「名所や観光地が豊富」は、男性の40代で6割台半ば、男性の50代、女性の40代、50代でも5割台半ばを超えている—

地域別でみると、「名所や観光地が豊富」は、県北（54.0%）、県央（54.7%）、鹿行（54.3%）で5割台半ばと高くなっている。また、「農業が盛ん」は、県北（39.1%）、県央（39.8%）、県西（38.8%）で約4割と高くなっている。「清流や湖」については、県西（35.3%）で3割台半ばと最も高く、他の地域は3割を下回っている。

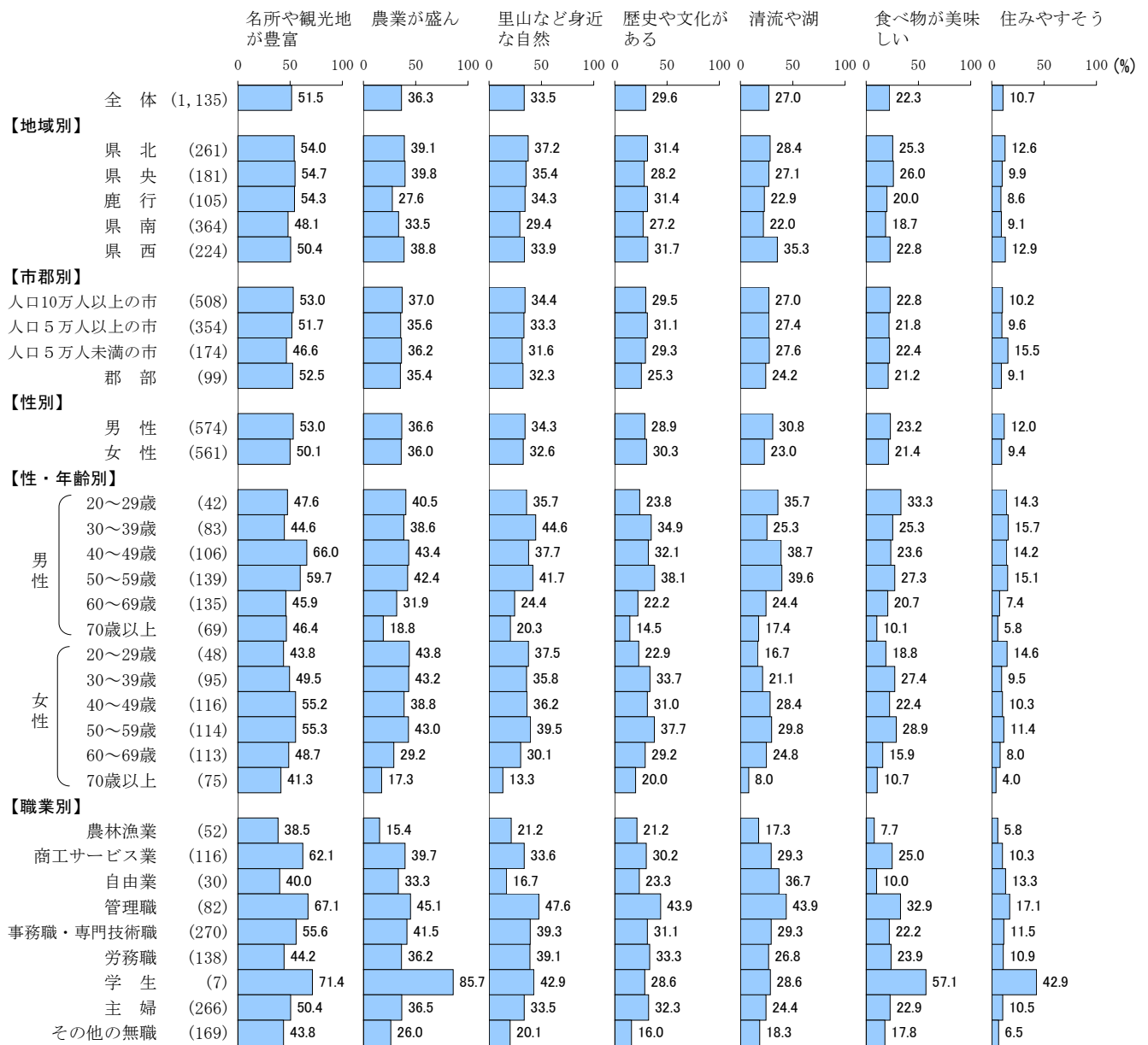
市郡別でみると、「名所や観光地が豊富」は、人口10万人以上の市（53.0%）、人口5万人以上の市（51.7%）、郡部（52.5%）で5割を超えているのに対して、人口5万人未満の市（46.6%）では5割を下回っている。

性別でみると「清流や湖」は、男性（30.8%）が女性（23.0%）より約8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「名所や観光地が豊富」は、男性の40代（66.0%）で6割台半ばと最も高く、男性の50代（59.7%）、女性の40代（55.2%）、50代（55.3%）でも5割台半ばを超えている。また、「農業が盛ん」は、男性の20代～50代、女性の20代～50代では4割前後となっている。「里山など身近な自然」については、男性の30代（44.6%）で4割台半ば近くと最も高く、男性の50代（41.7%）も4割を超えている。

職業別でみると、「名所や観光地が豊富」は、管理職（67.1%）で6割台半ばと最も高く、商工サービス業（62.1%）も6割を超えている。また、「農業が盛ん」は、管理職（45.1%）で4割台半ばと最も高く、商工サービス業（39.7%）、事務職・専門技術職（41.5%）でも4割前後となっている。「里山など身近な自然」については、管理職（47.6%）が4割台半ばと最も高くなっている。

図Ⅱ 3-7 都県の資源に対するイメージ (イ) 栃木県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(ウ) 群馬県】

—「里山など身近な自然」は、男性の50代で4割台半ば、男性の30代、女性の50代でも4割近く—
地域別でみると、「里山など身近な自然」は鹿行（41.9%）で4割を超えて最も高く、県央（32.0%）、県南（32.1%）、県西（34.4%）でも3割を超えている。また、「農業が盛ん」は、県南（29.4%）と県西（30.4%）で3割前後となっている。「名所や観光地が豊富」については、鹿行（41.0%）で4割を超えて最も高くなっている。

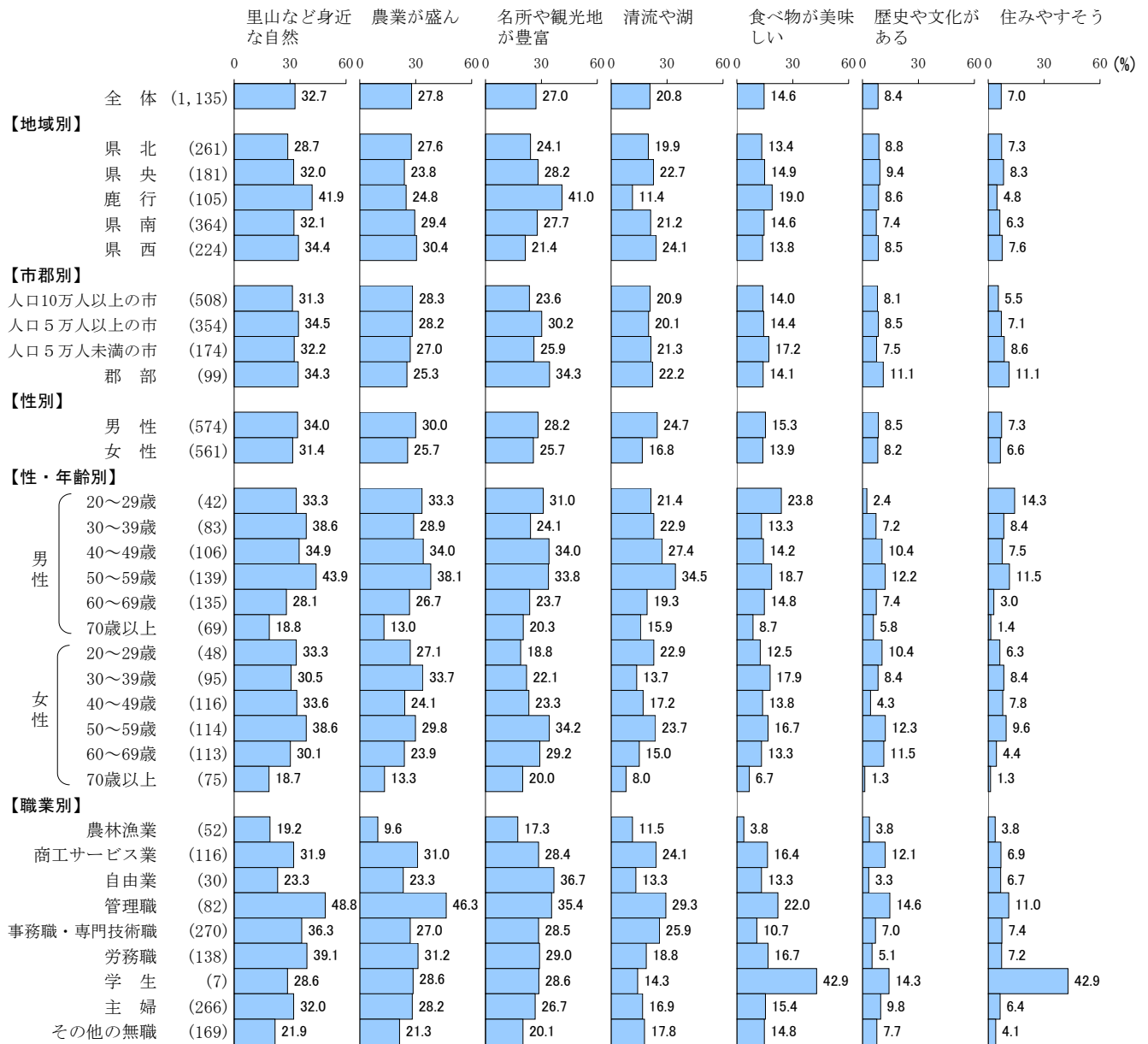
市郡別でみると、「里山など身近な自然」は、すべての層で3割を超え、「農業が盛ん」についても、すべての層で2割台半ばを超えている。また、「名所や観光地が豊富」は、郡部（34.3%）で3割台半ば近くと最も高くなっている。

性別でみると、「農業が盛ん」は、男性（30.0%）が女性（25.7%）より約4ポイント高くなっているほか、「清流や湖」についても男性（24.7%）が女性（16.8%）を約8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「里山など身近な自然」は、男性の50代（43.9%）で4割台半ばと最も高く、男性の30代（38.6%）、女性の50代（38.6%）でも4割近くとなっている。また、「農業が盛ん」は、男性の20代（33.3%）、40代（34.0%）、50代（38.1%）、女性の30代（33.7%）で3割を超えている。「名所や観光地が豊富」については、男性の20代（31.0%）、40代（34.0%）、50代（33.8%）、女性の50代（34.2%）で3割を超えている。

職業別でみると、「里山など身近な自然」は、管理職（48.8%）で約5割と最も高く、労務職（39.1%）でも約4割となっている。また、「農業が盛ん」も、管理職（46.3%）が4割台半ばで最も高く、商工サービス業（31.0%）、労務職（31.2%）も3割を超えている。「名所や観光地が豊富」については、自由業（36.7%）と管理職（35.4%）で3割台半ばと高くなっている。

図Ⅱ 3-8 都県の資源に対するイメージ (ウ) 群馬県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(エ) 千葉県】

—「きれいな海」は、女性の50代で4割台半ば、男性の20代～50代、女性の30代、40代でも3割超—

地域別でみると、「きれいな海」は、県西（37.9%）で最も高く、県北（31.0%）、県央（28.7%）、県南（30.2%）でも3割前後となっている。また、「交通の便が良い」は、鹿行（36.2%）で3割台半ばと最も高くなっている。「工業が盛ん」については、県北（32.6%）と鹿行（36.2%）で3割を超えているのに対して、他の地域は2割台となっている。

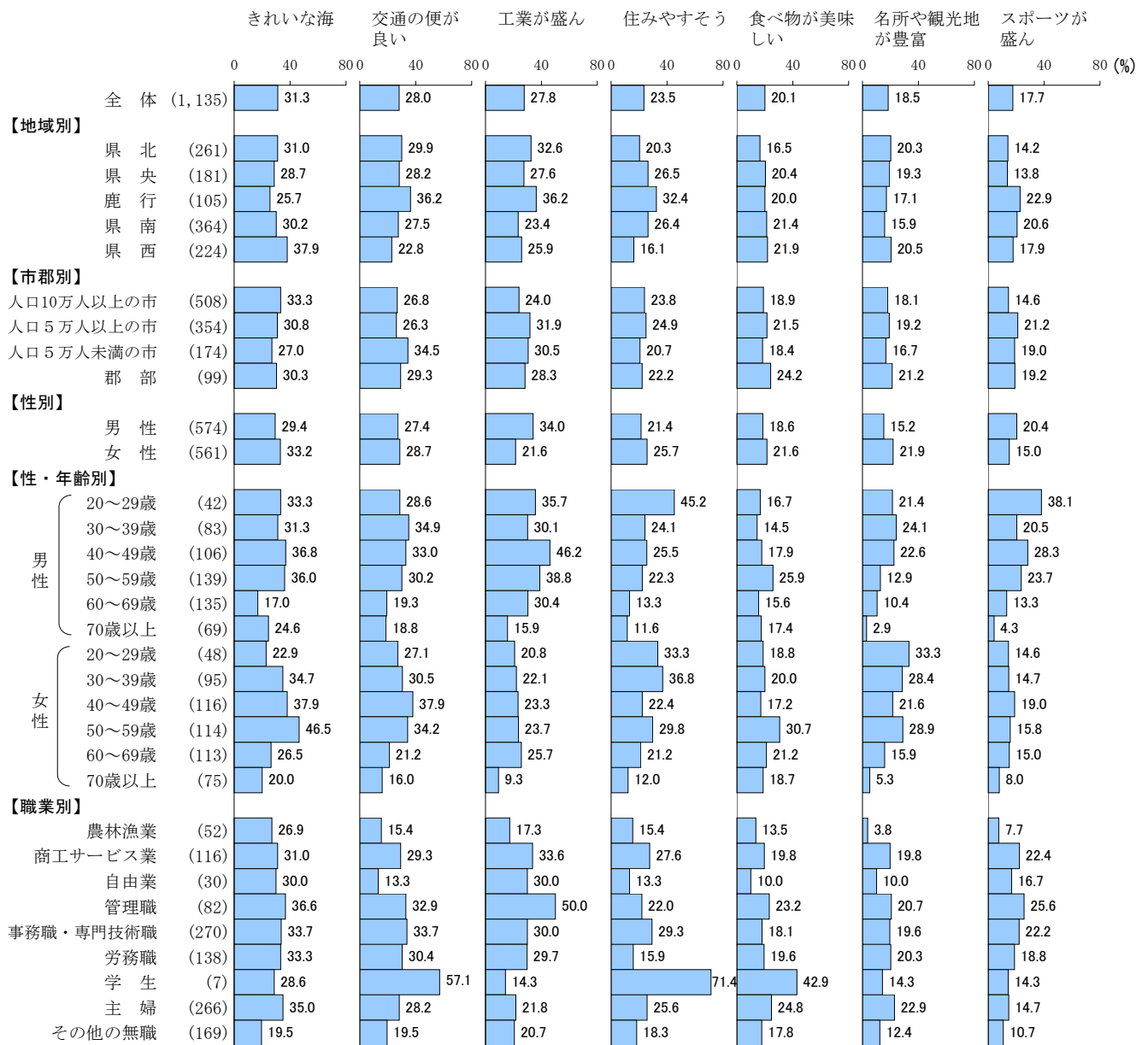
市郡別でみると、「きれいな海」は、人口10万人以上の市（33.3%）、人口5万人以上の市（30.8%）、郡部（30.3%）では、3割を超えている。また、「交通の便が良い」は、人口5万人未満の市（34.5%）で3割台半ば近くと最も高くなっている。「工業が盛ん」については、人口5万人以上の市（31.9%）、人口5万人未満の市（30.5%）、郡部（28.3%）で3割前後となっている。

性別でみると、「工業が盛ん」は、男性（34.0%）が女性（21.6%）より約12ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「きれいな海」は、女性の50代（46.5%）で4割台半ばと最も高く、男性の20代～50代、女性の30代、40代でも3割を超えている。また、「交通の便が良い」は、男性の30代～50代、女性の30代～50代で3割を超えている。「工業が盛ん」については、男性の40代（46.2%）で4割台半ばと最も高く、男性の20代（35.7%）、50代（38.8%）でも3割台半ばを超えている。

職業別でみると、「きれいな海」は、商工サービス業（31.0%）、自由業（30.0%）、管理職（36.6%）、事務職・専門技術職（33.7%）、労務職（33.3%）、主婦（35.0%）で3割を超えている。また、「交通の便が良い」は、商工サービス業（29.3%）、管理職（32.9%）、事務職・専門技術職（33.7%）、労務職（30.4%）で3割前後となっている。「工業が盛ん」については、管理職（50.0%）が5割と最も高くなっている。

図Ⅱ 3-9 都県の資源に対するイメージ (エ) 千葉県
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

【(オ) 東京都】

—「交通の便が良い」は、男性の40代、50代、女性の20代～50代で7割超—

地域別でみると、「交通の便が良い」は、鹿行（84.8%）で8割台半ばと最も高く、県南（72.8%）でも7割を超えている。また、「科学技術が発展」は、すべての地域で2割を超えて、「名所や観光地が豊富」についても、県北（23.4%）、県央（22.1%）、県南（20.6%）、県西（21.0%）で2割を超えている。「他の地域にない経験ができる」については、県北（25.3%）で2割台半ばと最も高くなっている。

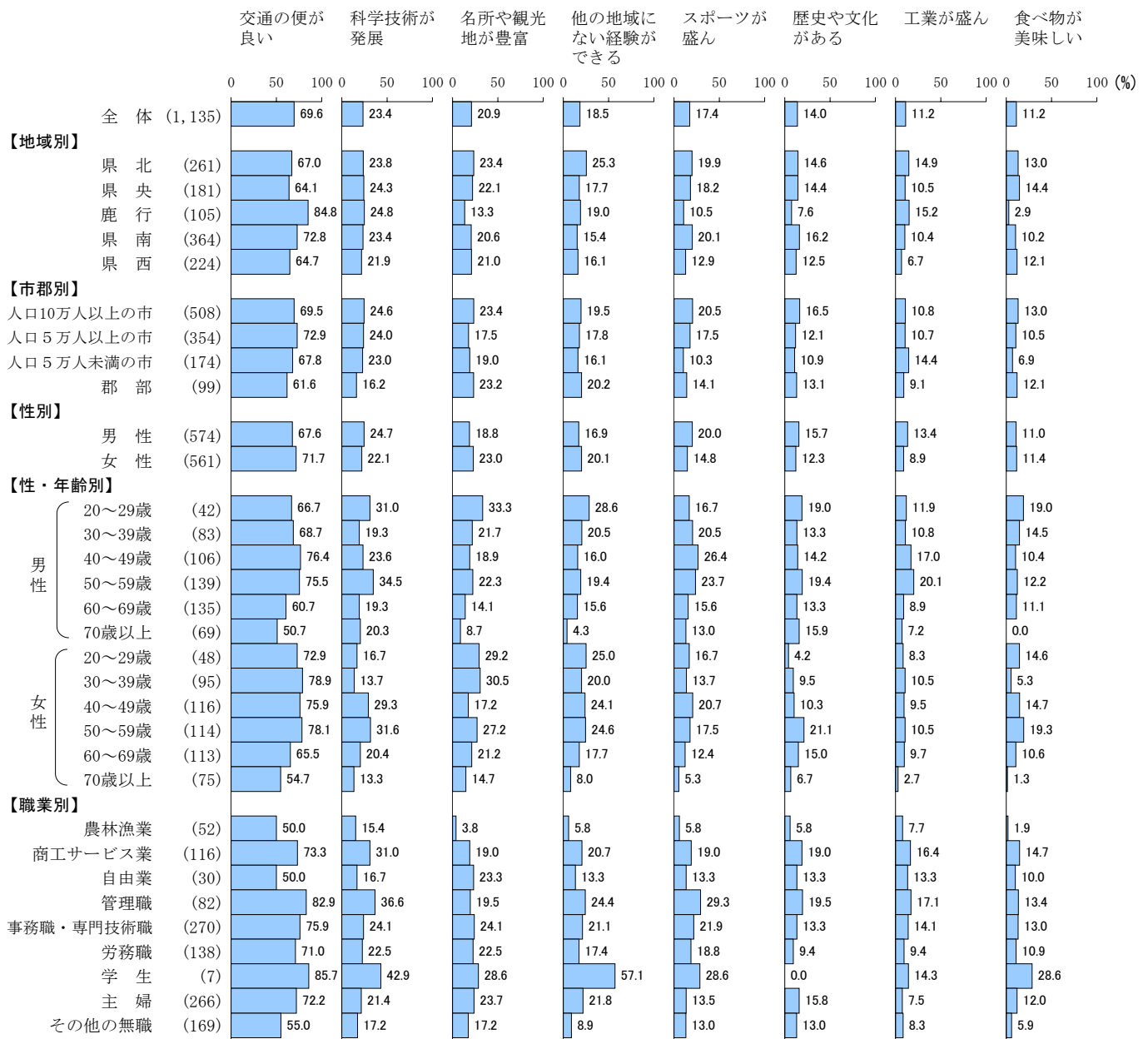
市郡別でみると、「交通の便が良い」は、人口10万人以上の市（69.5%）、人口5万人以上の市（72.9%）、人口5万人未満の市（67.8%）で7割前後となっているが、郡部（61.6%）は低くなっている。また、「科学技術が発展」は、人口10万人以上の市（24.6%）、人口5万人以上の市（24.0%）、人口5万人未満の市（23.0%）で2割を超えている。「名所や観光地が豊富」については、人口10万人以上の市（23.4%）と郡部（23.2%）で2割を超えている。

性別でみると、「交通の便が良い」は、女性（71.7%）が男性（67.6%）より約4ポイント高くなっている。一方、「スポーツが盛ん」は、男性（20.0%）が女性（14.8%）を約5ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「交通の便が良い」は、男性の40代、50代、女性の30代～50代では7割台半ばを超えている。また、「科学技術が発展」は、男性の20代（31.0%）、50代（34.5%）、女性の50代（31.6%）で3割を超えている。「名所や観光地が豊富」については、男性の20代（33.3%）、女性の20代（29.2%）、30代（30.5%）で3割前後となっている。

職業別でみると、「交通の便が良い」は、管理職（82.9%）で8割を超えて最も高く、商工サービス業（73.3%）、事務職・専門技術職（75.9%）、労務職（71.0%）、主婦（72.2%）でも7割を超えている。また、「科学技術が発展」については、商工サービス業（31.0%）、管理職（36.6%）で3割を超えている。

図Ⅱ 3-10 都県の資源に対するイメージ (オ) 東京都
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位8項目)

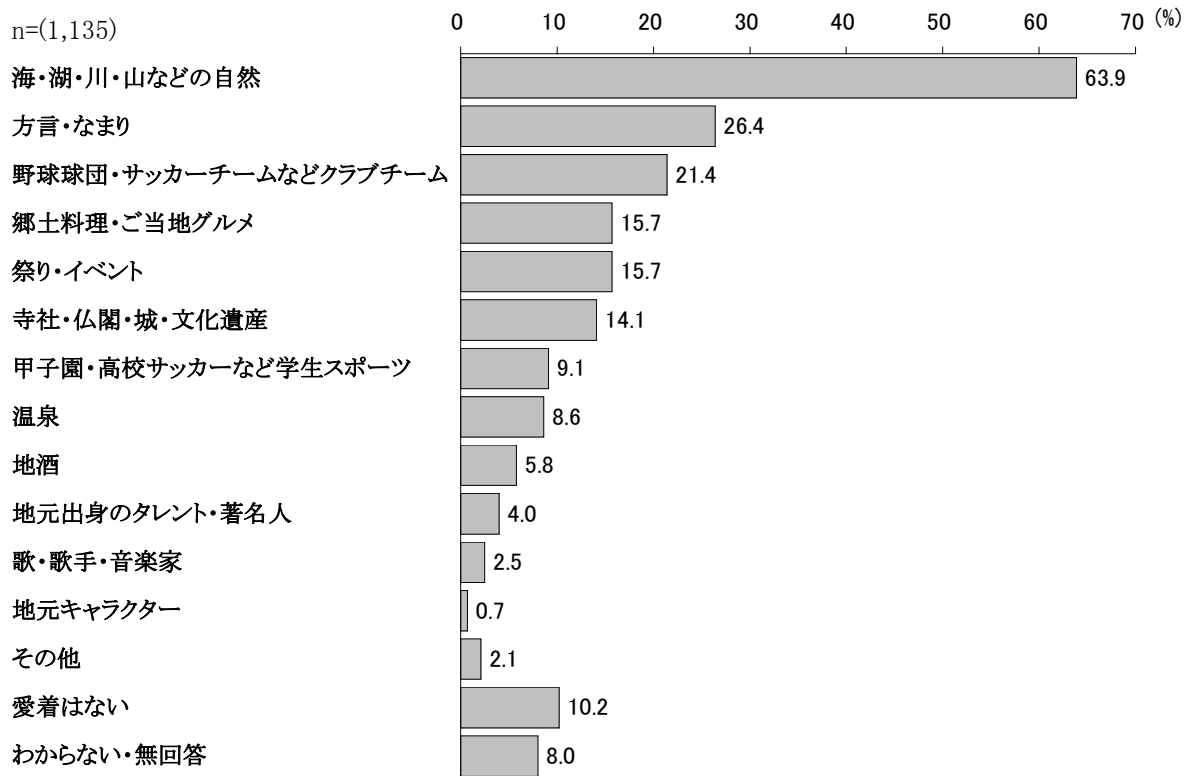


(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

2. 茨城県に愛着や誇りを感じるどころ

—「海・湖・川・山などの自然」が6割台半ばで最も多い—

問4 あなたは、茨城県のどのようなところに愛着や誇りを感じますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



茨城県に愛着や誇りを感じるどころとしては、「海・湖・川・山などの自然」(63.9%)が6割台半ばで最も高く、次いで「方言・なまり」(26.4%)、「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」(21.4%)が2割台で、「郷土料理・ご当地グルメ」「祭り・イベント」(ともに15.7%)、「寺社・仏閣・城・文化遺産」(14.1%)が1割台で続いている。

—「海・湖・川・山などの自然」が県北、県央で7割台半ば—

地域別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、県北(77.0%)、県央(76.8%)で7割台半ばと高く、鹿行(61.0%)でも6割を超えている。「方言・なまり」は、県央(32.6%)で3割を超えて最も高く、他の地域は2割台となっている。また、「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」は、鹿行(43.8%)で4割を超えているのに対して、県央(26.5%)では2割台半ば、他の地域は1割台となっている。

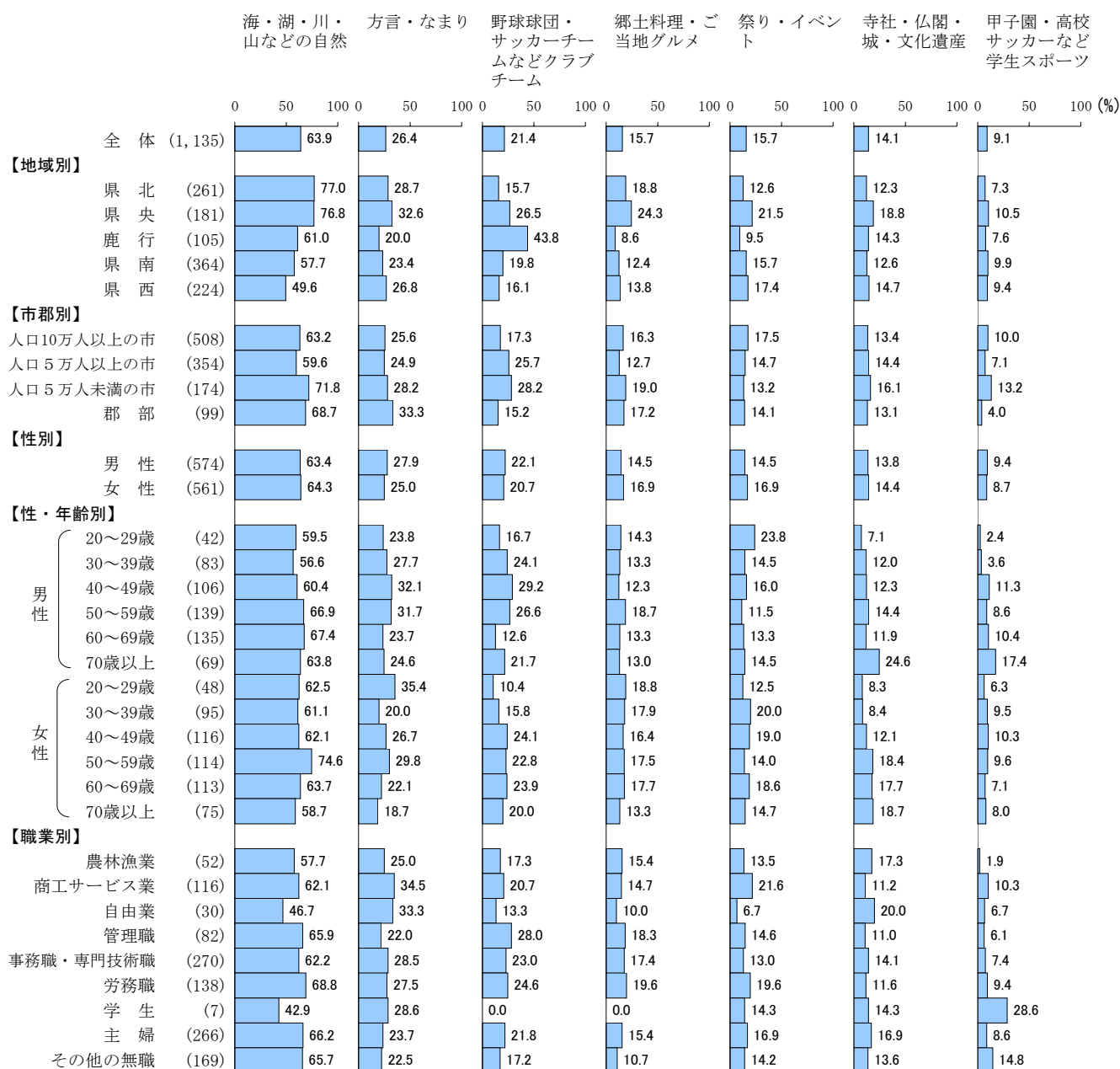
市群別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、人口5万人未満の市(71.8%)、郡部(68.7%)では7割前後を占め高くなっている。「方言・なまり」は、郡部(33.3%)で3割を超えているが、他の層では2割台となっている。また、「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」は人口5万人以上の市(25.7%)、人口5万人未満の市(28.2%)で2割台半ばを超えているが、他の層では1割台となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、女性の50代（74.6%）で7割台半ばと最も高く、男性の50代（66.9%）と60代（67.4%）でも6割台半ばと高くなっている。また、「方言・なまり」は、女性の20代（35.4%）で3割台半ばと最も高く、男性の40代（32.1%）、50代（31.7%）でも3割を超えている。「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」は、男性の40代（29.2%）で3割近くと最も高く、男性の30代（24.1%）、50代（26.6%）、女性の40代（24.1%）、60代（23.9%）でも2割台半ば前後で高くなっている。

職業別でみると、「海・湖・川・山などの自然」は、労務職（68.8%）で7割近くと最も高く、管理職（65.9%）、主婦（66.2%）、その他の無職（65.7%）でも6割代半ば前後で高くなっている。また、「方言・なまり」は、商工サービス業（34.5%）、自由業（33.3%）が3割台半ばと高くなっている。「野球球団・サッカーチームなどクラブチーム」については、管理職（28.0%）が3割近くと最も高く、労務職（24.6%）も2割台半ばとなっている。

図Ⅱ 4-1 茨城県に愛着や誇りを感じるどころ
 (地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)

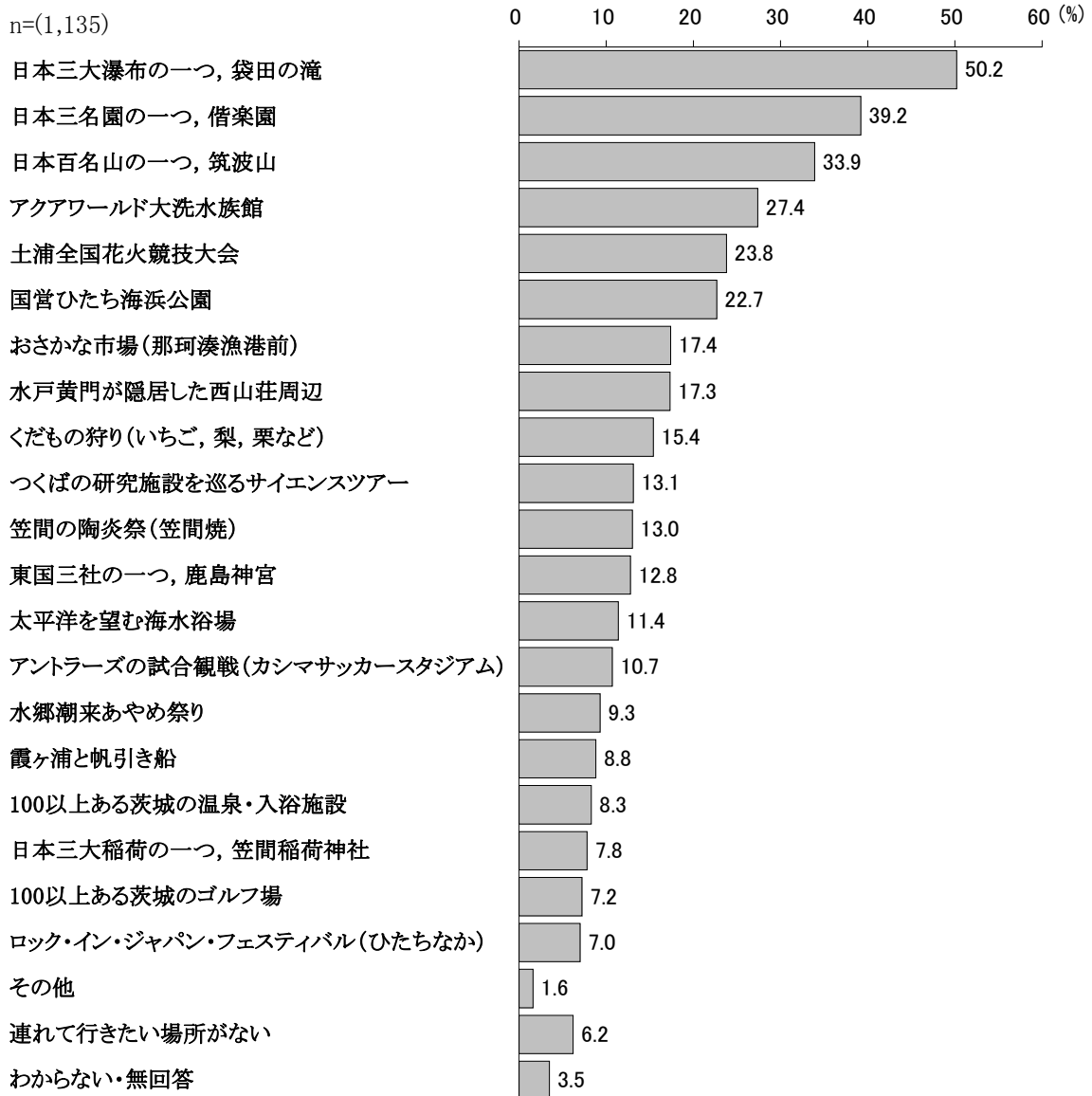


(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

3. 県外の友人を連れて行きたい茨城県の名所

—「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」が約5割で最も多い—

問5 県外の友人を茨城県に誘う場合、どこに連れて行きたいですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



県外の友人を連れて行きたいところとしては、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」(50.2%)が約5割と最も高く、次いで「日本三名園の一つ、偕楽園」(39.2%)、「日本百名山の一つ、筑波山」(33.9%)が3割台で、「アクアワールド大洗水族館」(27.4%)、「土浦全国花火競技大会」(23.8%)、「国営ひたち海浜公園」(22.7%)が2割台で続いている。

—「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は県北で7割近く—

地域別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、県北(67.4%)で6割台半ばを超え最も高く、県央(59.1%)でも6割近くとなっているのに対して、県西(32.6%)では3割台となっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、県央(68.0%)では7割近くと最も高く、県北(48.3%)でも5割近くとなっているのに対して、鹿行(27.6%)と県西(23.7%)では2割台となっている。

「日本百名山の一つ、筑波山」は、県南(49.7%)で5割近くと最も高く、県西(44.2%)では4割台半ばとなっているが、県北(13.8%)では1割台となっている。

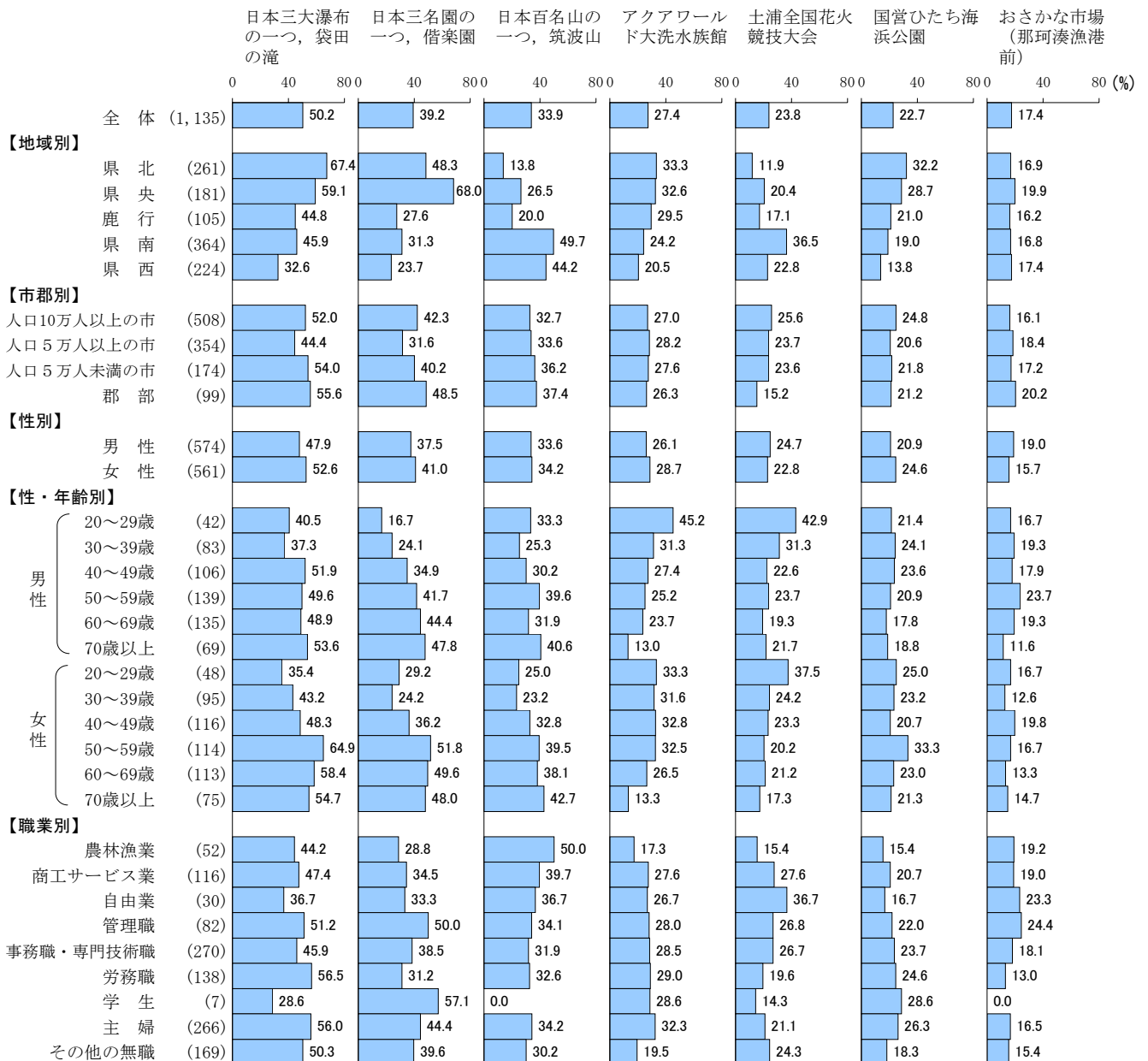
市群別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、人口10万人以上の市（52.0%）、人口5万人未満の市（54.0%）、郡部（55.6%）では5割を超えているのに対して、人口5万人以上の市（44.4%）では4割台となっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、郡部（48.5%）で5割近くと最も高く、人口10万人以上の市（42.3%）、人口5万人未満の市（40.2%）でも4割を超えているが、人口5万人以上の市（31.6%）では4割以下となっている。「日本百名山の一つ、筑波山」は、いずれの層でも3割を超えている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、女性の50代（64.9%）が6割台半ばで最も高く、男性の40代（51.9%）と70歳以上（53.6%）、女性の60代（58.4%）と70歳以上（54.7%）も5割を超えて高くなっている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、男性の70歳以上と女性の50代以上で5割前後と高くなっている。「日本百名山の一つ、筑波山」は、男性の50代と70歳以上、女性の50代～70歳以上で4割前後と高くなっている。

職業別でみると、「日本三大瀑布の一つ、袋田の滝」は、労務職（56.5%）と主婦（56.0%）で5割台半ばと高く、管理職（51.2%）とその他の無職（50.3%）でも5割を超えている。また、「日本三名園の一つ、偕楽園」は、管理職（50.0%）で5割を占めている。「日本百名山の一つ、筑波山」は、農林漁業（50.0%）で5割と最も高く、その他の職業も3割台となっている。

図Ⅱ 5-1 県外の友人を連れて行きたい茨城県の名所
 (地域別、市郡別、性別、性・年齢別、職業別—上位7項目)

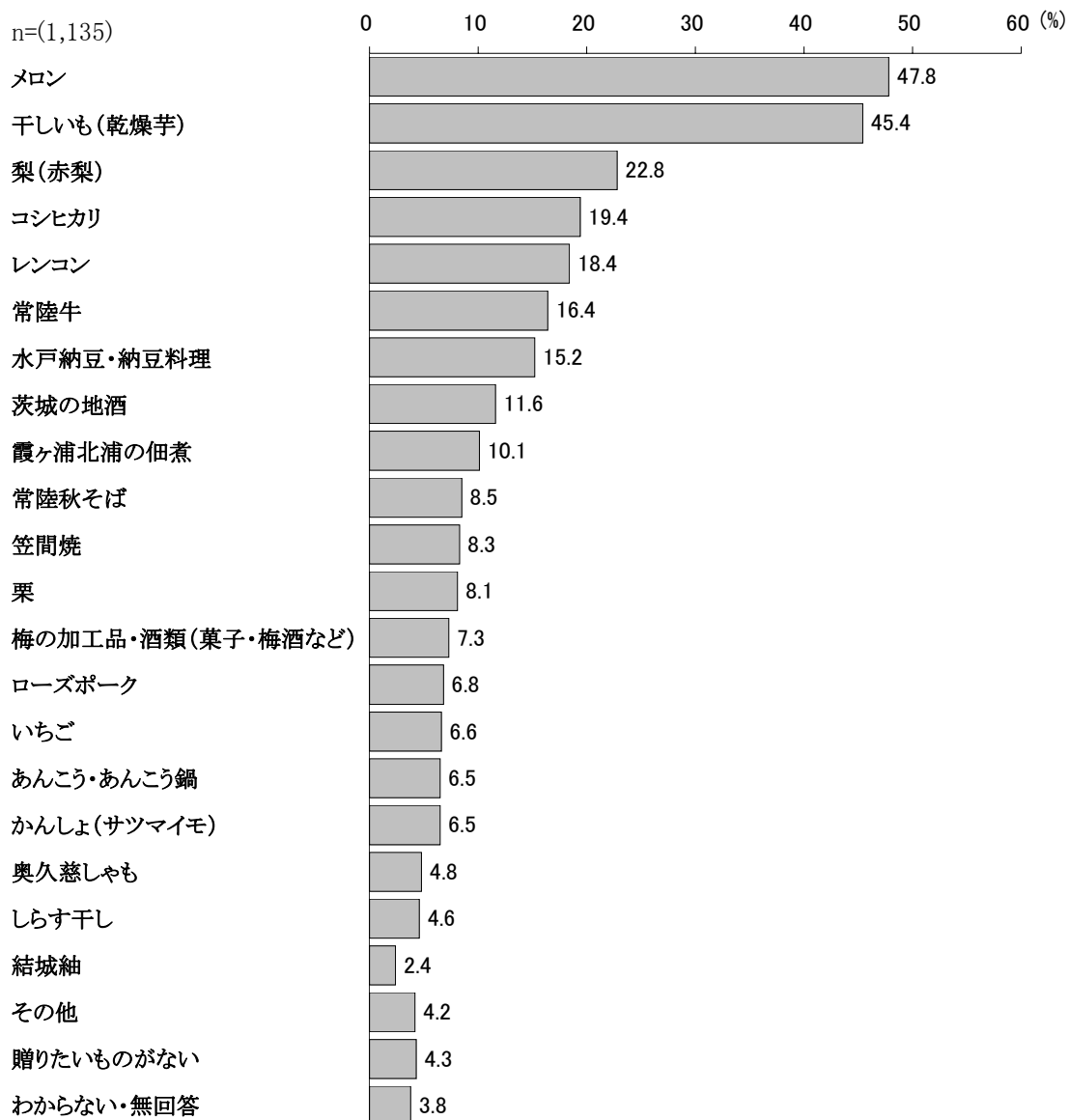


(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。

4. 贈答品で贈りたい県産品

—「メロン」と「干しいも（乾燥芋）」が4割台半ば—

問6 お中元・お歳暮などの贈答品に県産品を使う場合、何を贈りたいですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。



お中元・お歳暮などの贈答品に使う県産品としては、「メロン」(47.8%)と「干しいも(乾燥芋)」(45.4%)が4割台半ばと高く、次いで「梨(赤梨)」(22.8%)が2割台で、「コシヒカリ」(19.4%)、「レンコン」(18.4%)、「常陸牛」(16.4%)、「水戸納豆・納豆料理」(15.2%)、「茨城の地酒」(11.6%)、「霞ヶ浦北浦の佃煮」(10.1%)が1割台が続いている。

—「メロン」は鹿行で8割強—

地域別でみると、「メロン」は、鹿行（82.9%）で8割を超えて最も高く、県央（59.1%）でも6割近くを占めているのに対して、県北（38.3%）、県南（43.4%）、県西（40.6%）は4割前後となっている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、県北（68.6%）では7割近くと最も高く、県央（61.9%）でも6割を超えているが、県西（26.8%）では3割以下となっている。「梨（赤梨）」については、県西（31.3%）が3割を超えて最も高く、県央（23.2%）と県南（26.9%）も2割を超えている。他の項目については、「コシヒカリ」は鹿行（26.7%）で、「レンコン」は県南（37.4%）で、「常陸牛」は県北（26.4%）で、「水戸納豆・納豆料理」は県央（29.8%）で最も高くなっている。

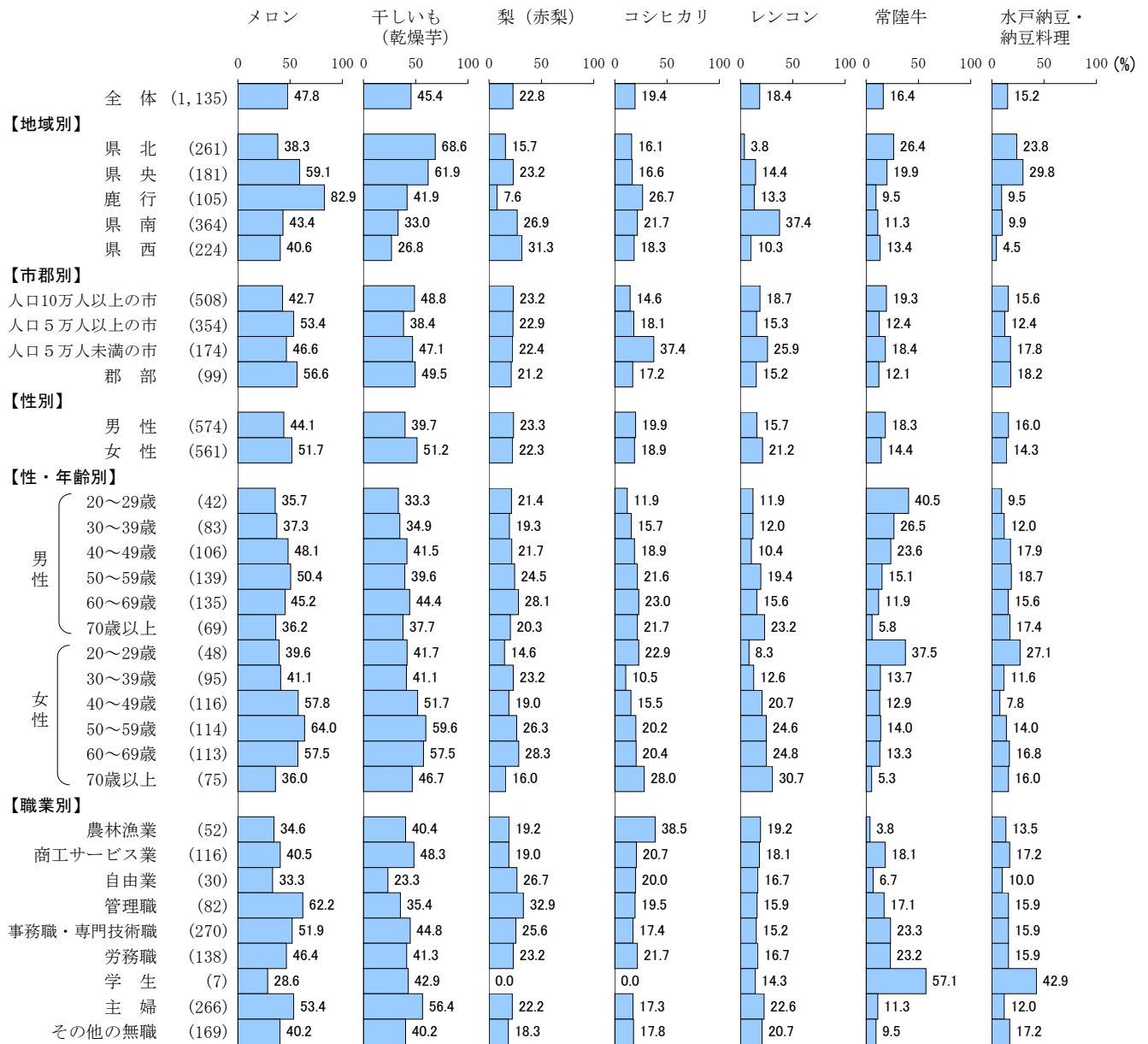
市群別でみると、「メロン」は、人口5万人以上の市（53.4%）と郡部（56.6%）では5割台半ばとなっているのに対して、人口10万人以上の市（42.7%）と人口5万人未満の市（46.6%）では5割以下となっている。また、「干しいも（乾燥芋）」は人口10万人以上の市（48.8%）、人口5万人未満の市（47.1%）、郡部（49.5%）では5割近くとなっているが、人口5万人以上の市（38.4%）では4割以下となっている。「梨（赤梨）」については、すべての層で2割を超えている。この他、「コシヒカリ」は、人口5万人未満の市（37.4%）で最も高くなっている。

性別でみると、「メロン」は、女性（51.7%）が男性（44.1%）より約8ポイント高くなっているほか、「干しいも（乾燥芋）」も、女性（51.2%）が男性（39.7%）を約12ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「メロン」は、女性の50代（64.0%）で6割台半ばと最も高く、女性の40代（57.8%）と60代（57.5%）でも6割近くを占めている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、女性の50代（59.6%）と60代（57.5%）が6割近くを占め高くなっている。「梨（赤梨）」については、30代を除く男性と、女性の30代（23.2%）、50代（26.3%）、60代（28.3%）で2割を超えている。この他、「常陸牛」は、男性の20代（40.5%）と女性の20代（37.5%）で、特に高くなっている。

職業別でみると、「メロン」は、管理職（62.2%）で6割を超えて最も高く、事務職・専門技術職（51.9%）、主婦（53.4%）でも5割を超えている。また、「干しいも（乾燥芋）」は、主婦（56.4%）で5割台半ばと最も高く、農林漁業（40.4%）、商工サービス業（48.3%）、事務職・専門技術職（44.8%）、労務職（41.3%）、その他の無職（40.2%）でも4割を超えている。「梨（赤梨）」については、管理職（32.9%）が最も高くなっている。この他、「コシヒカリ」については、農林漁業（38.5%）が4割近くと最も高くなっている。

図Ⅱ 6-1 贈答品で贈りたい県産品
(地域別, 市郡別, 性別, 性・年齢別, 職業別—上位7項目)



(注) 学生は回答人数が少ないので分析ではふれていない。